

(資料提供)

月 日	担当館名	電話	担当者
10月13日 (金)	徳島県立近代美術館 文化の森企画広報室	phone:088-668-1088 fax:088-668-7198	森芳功 吉原美恵子

## 廣島晃甫回顧展－近代日本画のもう一つの可能性

### 1. 趣旨

平成29年度秋の特別展として開催される本展は、近代の日本画家として目覚ましい活躍を見せた、廣島晃甫【ひろしま こうほ】(1889-1951年・徳島市出身)の画業をご紹介します。初の回顧展です。

東京美術学校(現・東京藝術大学)の卒業制作で、明治末・大正期の個性表現を代表する〈玉乗り〉を制作。また当時画壇の最高の権威とされた帝展(帝国美術院展)では、第1回展の〈青衣の女〉、第2回展の〈夕暮れの春〉が連続して特選となり、一躍世の脚光を浴びます。その後もヨーロッパにおもむいて西洋風景を描き、洋画的な日本画に挑戦したほか、身近にある美しい日本の自然も追求しました。創作版画の団体展をはじめて結成するなど、日本の版画史に名を刻んだ画家としても知られています。

この展覧会では、廣島の各時代を代表するおよそ100点の作品を展示します。時代に翻弄されながら、新しさと伝統のはざままで、日本画とは何かを考え続けた波乱に富んだ画業からは、近代日本画がもっていたさまざまな可能性と魅力が再発見できるはずです。

2. 会期：2017年10月21日〔土〕-12月10日〔日〕

3. 会場：徳島県立近代美術館 展示室3

4. 主催：徳島県立近代美術館

共催：四国放送

後援：徳島新聞社／NHK徳島放送局／エフエム徳島／(公財)徳島県文化振興財団

助成：芸術文化振興基金

第19回徳島県民文化祭共催事業／beyond2020プログラム

5. 開館時間：午前9時30分-午後5時

6. 休館日：毎週月曜日

7. 観覧料：一般 600円〔480円〕／高・大生 450円〔360円〕／小・中生 300円〔240円〕〔 〕内は20名以上の場合

身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をご提示いただいた方とその介助をされる方1名は観覧料が無料になります。

65歳以上の方で証明できるものをご提示いただいた方は半額になります。

小・中・高生は、土・日・祝日・振替休日の観覧料が無料になります。

特別展の観覧料で所蔵作品展もご覧いただけます。

### 8. 出品内容

青衣の女 1921年 東京国立近代美術館蔵

玉乗り 1912年 東京藝術大学蔵

夕暮れの春 1920年 徳島県立近代美術館蔵

牡丹 1922年 徳島県立近代美術館蔵

双鳩 大正末期 山種美術館蔵

窓辺静物 1949年 高松市美術館蔵

暮景 1919-22年頃 徳島県立近代美術館蔵

など、およそ100点を展覧します。なお、会期中、一部の作品の展示替えがあります。

### 9. 関連行事

・展示解説\*φ 10月22日〔日〕、12月3日〔日〕 14:00~15:00

・手話通訳つき展示解説\* 10月22日〔日〕 10:00~11:30

・レクチャー「廣島晃甫の生涯と画業」φ 11月12日〔日〕 14:00~15:30

講師：森 芳功〔企画交流室長〕

会場：講座室

参加無料・申込不要

- ・こども鑑賞クラブ\* 11月18日[土] 14:00～14:45 小学生対象（保護者同伴可）

参加無料（保護者は要観覧券）、申込不要

- ・日本画再発見ワークショップ♠ 11月25日[土] 13時30分～16時、11月26日[日] 10時～16時

講師：森山知己（日本画家・倉敷芸術科学大学教授）

会場：アトリエ

定員：20名

対象：高校生以上

要申込・材料費1000円程度・道具の貸出可

日本画の線と絵肌の体験など、簡単な制作を行う他、廣島晃甫の技法の謎解きから「日本画とは何か」を考えます。

\*は、展覧会場で開催。♠は、ヒアリンググループあり：テレコイル付き補聴器、人工内耳に講師のマイク音声をはっきり聞こえます。また、要約筆記を希望の方は2週間前までにご相談ください。

10. お問い合わせ

徳島県立近代美術館 tel:088-668-1088